

『夢の魔法使いへ』

明倫小学校 6年 有森 星那

私の将来の夢は、パティシエです。パティシエになりたいと思ったのは、4～5歳のころでした。その頃は、パティシエになれば無料でケーキが食べられると勘違いしていました。その後、食べられないということが分かって、この6年間、夢を変えたことは一回もありません。

なぜだろうと考えた時、頭にふと浮かんだのは、何か作ったら「上手！」と褒めてくれるお母さんや友達、「美味しい」と言ってくれる妹。私は、みんなのニコニコとした感情や笑顔が好きだから、1回も夢を変えたことが無いんだと思います。

パティシエは「技術」だけではないと思います。もちろん、「技術」がないと美味しいものは作れない。でも、一番は食べている人を考えながら、気持ちを込めながら作るのだと思います。気持ちがこもっているのともっていないだと美味しさが変わるというのは、私が一番実感しています。

他の人の夢と比べると、保育士や美容師になりたい人がいっぱいいて、パティシエになりたい人は周りにほとんどいません。正直人気がないのかな、と少し悲しい気持ちになったこともあります。けれど、皆に合わせていたら意味がないし、将来私が有名になって「パティシエになりたい子を増やせばいいじゃん！」とポジティブに考えています。今では胸を張って夢を言えるようになりました。一人でも夢を追いかける人になりたいです。

パティシエは洋菓子を作る仕事です。ケーキ屋さんには何かを買いに行くのは、誕生日ケーキなどおめでたい日に行く人が多いと思います。その日を笑顔でいい日にするために頑張りたいです。ケーキは私の中で、みんなを笑顔にできる「魔法」の食べ物です。じゃあ、ケーキを作るパティシエは、「魔法使い」になります。私は、みんなを笑顔にできる魔法使いのような最高のパティシエになりたいです。